

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P <http://www.kohitsuji.or.jp/>

発行人：稲松 義人
印刷所：聖隷サービス(有)
定 価：一部 30 円

2010年 8 月 20 日
第 328 号



夏の思い出

理事長
稲松 義人

♪「夏が来れば思い出す はるかな
尾瀬 遠い空…」

これは、江間章子作詞、中田喜直作曲の唱歌「夏の思い出」の歌い出しの部分です。私は、中学生のときに校内合唱コンクールでこの曲を合唱した思い出があります。たぶんコンクールは毎年あったと思うのですが、私の場合、他の年に何を歌ったのかは思い出すことはできません。小学生、中学生のときの出来事の中で、どんなことをどの程度覚えていられるのか、その人によって違いはあるのでしょうか、たえ思い出すことができなくても、数えきれないたくさん思い出を積み重ねたことによって、今の自分がかたち作られているのだらうと思います。

中学時代、私はいわゆる野球少年で、夏休みも毎日のように部活動のために学校に通い、炎天下のグラウンドを走り回っていました。野球帽のふちは汗が乾いて塩が噴いており、ユニホームに覆われない首の後ろや腕はチョコレイト色に日焼けし、顔の皮膚は夏に一、二回くらい剥けたというのを思い出します。中学二年のときに、女子ソフトボール部の数名から誘われて、こちら

も数名の仲間を誘って、近くの神社の夏祭りに出かけたこともありました。その他にも、友だちに誘われて学校では禁止されていた磯釣りについていたり、野球部の友人たちと甲子園球場に高校野球全国大会を見にいったりした思い出もあります。

また、夏休みには、家族で旅行したり、外出したり、近所のもとだちと遊んだり、親戚のうちに泊まりにいたり、通常ではできないことがいろいろと経験できます。また宿題も自分で計画を立てて取り組むように言われ、課題の中には自由研究や、工作や日記など、夏休みらしいものもありました。

しかし、障がいのある子どもたちにとっては、夏休みといっても出かけられる場所も少なく、自分一人で時間を使うことができる「遊び」もほとんどなく、また、利用できる福祉サービスも十分ではないというのが現状です。多くのご家庭で、夏休みの間、子どもたちにどんな生活をしてもらったらよいのか、苦勞しておられるのではないかと思います。

もともと重い障がいのある子どもたちが就学免除とされた時代、障がい児の入所施設として開園した小羊学園でしたが、一九七九年に養護学校が義務制となることで施設入所希望者が減少し、年数が経つうちに児童福祉施設でありながら、成人した利用者が増えていきました。時代が巡り施設を取り巻く

環境が変化していく中で、児童福祉施設のあり方を問い、取り組みはじめたのが、養護学校の夏休み期間に計画した特別の日中プログラム(夏期特別デイサービス)でした。

最初は初めての取り組みでしたので、手探りの状態で、心許無い取り組みだったような気がしますが、それでも数日だけでも参加させてもらえればという希望者は毎年応募定数の三、四倍でした。

その後、特別支援学校(養護学校)の近くで開設した放課後児童サポートセンター「ドルチェ」でも、昨年までは夏休み前に特別の募集案内を出していましたが、今年度から毎日継続して支援を必要とする数名の子どもたちを中心に受け入れるようになりました。そのため夏休みだけの利用希望を受け入れる枠は小さくなってしまいました。

その事を見越して、初めて浜松特別支援学校PTAの主催で開催することになった「夏休みふれあい教室」の運営にできる限りの協力をしました。

子どもたちが、学校教育以外の場においても豊かな経験を重ね、健全な成長を支援していくためには、様々な立場の人の知恵と力を結集し、ご家族と協力して、育ちの場をつくっていくべきではないだらうかと思えます。

今年の夏、子どもたちはどんな思い出をそれぞれの心の中に刻んでくれたのだらうかと、振りかえています。

わたぐも特集

つばさ静岡わたぐも概要

鈴木崇之

わたぐも（重症心身障害児者通園事業A型・定員15名）は平成17年10月「つばさ静岡」開設と同時に重症心身障害者の日中活動の場として、また家族支援の場としてスタートしました。初年度は登録者13名で出発し、年々、利用希望者が増加し、平成22年度は登録者32名になりました。平成20年度からは、定員超過のため、新規利用者も週5日利用で受け入れることが困難となり、他通所施設との並行利用をお願いしています。また、日中一時支援を利用して定員を超えての利用者を受け入れています。

平成20年度からは幼児部を開設、就学前の重症児を週4日、1日定員5名で受け入れています。利用者の増加、障害像の多様化に伴って、施設の改修等を行いながらグループ編成を工夫し、22年度現在は、成人部4グループ、幼児部1グループに分けて、グループ単位での活動、生活を実施しています。

わたぐもの利用者は移動を含めた日常生活すべてにおいて全面的な介助を必要とする方々です。食事や排泄などの一つ一つの場面において、それぞれ



の利用者に合わせた個別の対応が必要となります。また、経管栄養、気管切開、人口呼吸器管理といった医療的なケアが半数以上の方に必要です。ですから、わたぐもでの生活は、健康の管理、食事や排泄、入浴などに多くの時間が取られてしまいます。その中でも利用者個々の小さな反応を見逃さないようにしながら、継続的な活動として製作や、朗読、クッキング、アロマを使った活動などを行なっています。またイベント、外出は、利用者の皆さんが季節を感じ、楽しい気持ちを持てるよう企画しています。

試行錯誤の毎日ですが、今後も日中の生活が楽しく快適に、またご家族の

気持ちを大切にしながら在宅での生活を維持できるよう取り組んでいきたいと思えます。

送迎・入浴・短期入所

鈴木麻純

送迎サービス

送迎に毎日2台の車両を利用していただきます。32名の登録者の中で送迎サービスを利用しているのは、15名程度です。1日3〜5人の利用者の送迎を行いますので、利用者一人当たりの送迎回数は週1回だけというのがほとんどです。毎年、たくさんの方の送迎利用希望がありますが、車両数の問題（車椅子利用ですと一人でも大きなスペースが必要ですが）や職員数の問題（医療的なケアが必要な利用者は看護師の添乗が必要ですが）があり、なかなか希望に添うことができない状況です。送迎が難しいために、わたぐも自体の利用回数を調整された方も見られました。現在は、それぞれのご家族の状況を考慮して、限られた送迎の枠を、自主送迎できない方に優先的に利用していただいています。また、欠席やショートステイの利用によって送迎枠に空きができた場合は、普段自主送迎されている方の送迎サービスの体験に活用しています。

入浴サービス

火曜日から金曜日まで1日6〜8人の入浴を行っています。送迎同様、入

浴サービスはご家族にとっても大切な支援のひとつになっていきます。大きな体を抱えながらの入浴は、ご家族には大きな負担となることがあります。利用希望は多くありますが、やはり希望されるように利用していただくことは難しい状況です。家の問題、ご家族の問題で、入浴が困難な方、ご家族の負担となってしまうような利用者を優先的に回数を増やして利用していただいています。

ショートステイ

わたぐもを利用される方にとってこれらと同じように重要なのがショートステイサービスです。ショートステイは通園事業のサービスではありませんが、在宅生活を支える重要な資源です。



運動会

高村 慈恵

が出来ました。後日、運動会の絵を描きたいという利用者もいて、楽しい思い出になったのではないかと思います。

プール（幼児部）

水口 幹子

つばさ静岡2階のペランダに、わたくも幼児部のプライベートプールがあります。（といっても、どなたでも入れるのですが）キャラクターのついた小さなプールにパラソルで日影を作っただけの、こじんまりした空間ですが、子ども達は水遊びを楽しみに登園してきます。

6月28日月曜日、わたくも初の運動会を開催しました。選手はC・Dグループ利用者10名です。まずは開会式。Aさんが大きな声で選手宣誓をしてくれました。ラジオ体操をして、バッチリ準備が整ったところで、競技スタート。一つ目の種目は玉入れ。高いところのカゴに玉を入れるのは車椅子では少し大変なので、カゴを持った職員が走り回りました。玉をカゴに入れていくのか、はたまた職員にぶつけているのか、もうどっちでも楽しい状態です。次は卵運びリレー。使ったのは生卵。おたまに卵を載せて、車椅子を押した職員が走ります。卵は見事、グシャッと落ちました。最後の種目は借り物競争。応援に来てくれたA・Bグループも巻き込んで、全員で楽しみました。「Mさんのメガネ」や「Nさんのラジオ」、中には「山倉先生」なんていうのもあり、遠くまで探しに行く人もいました。

閉会式では、一人ひとりにメダルを授与。メダルは幼児部利用者が日々の活動で作ってくれたものです。閉会宣言はWさん、緊張したけれどみんなの前に出てくれました。一時間という短い時間でしたが、利用者の体調に配慮しつつ、にぎやかな時間をすごすこと

わたくもに通園するようになり、初めてプールに入るといいう子がほとんどで、手浴・足浴からはじめ少しずつ水に慣れてきました。呼吸状態や発作など体調が急変しやすい子ども達、呼吸器を使用している子どももいます。体温調節も上手くできない為、プールの水温は35度〜36度と、ぬるめのお風呂のようです。それでも水遊びの後は体温が下がってしまうので室温にも気をつけなくてはいいけません。炎天下で外も中も暑いので職員は汗だくです。でも、緊張していた子どももプールに入ると身体力が抜けリラックス。シャワーがかかるニコッと笑顔を見せてくれる子、自然と手足が動いたり、いろんな表情を見せてくれます。そんな子ども達を見ていると職員は暑くても頑張れちゃ



うのです!!

今年はずいぶん暑いです。露天風呂のようなプールでたくさん水遊びが楽しめそうです。

わたくも菜園

野口 真澄

わたくもには、専用の小さな菜園があります。保護者の方の協力を受けながら季節に応じた野菜を栽培しています。ピーマンやきゅうり、じゃがいもなどたくさん野菜が収穫できます。

収穫できた野菜は、販売したり、活動でクッキングの材料に利用したりしています。利用者の皆さんには、普段の水まきや収穫をやってもらっています。でも、車椅子の上からでは、畑の野菜に手が届きません。そこで、野菜に紐

をつけて職員と利用者が一緒に引っ張って収穫することにしました。収穫の時は、職員の大きな歓声と外に出るの開放感、心地よい風も混ざっていつも以上に手を動かし、にっこり笑った表情を見せてくれます。

でも車椅子で菜園に出入りすることは、ガタガタで泥がついて大変です。そこで、少しずつ菜園の改良を進め、車椅子が通りやすいようにブロックを敷いたりしました。効果はあるものもまだ改良が必要です。次はもっと土を盛って車椅子の利用者の視線の先、手の届くところに土がくるといいなあと考えています。

この夏は、強い日差しと暑さで体温調節が難しくて畑が遠くなってしまいました。そんなわけでなかなか手入れが出来ず草に負けてしまい、今は菜園とは呼べない状態です。皆さんが楽しめるまでにはまだ時間がかかりそうです。





競輪補助事業完了のお知らせ

この度平成22年度の競輪の補助金を受けて、左記の事業を完了いたしました。

記

- 一、事業名 平成22年度福祉車輜整備補助事業
- 一、事業の内容 福祉車両整備（移送車Ⅳ一台）
- 一、補助金額 1,238,000円
- 一、実施場所 共同生活介護「ひまわり」
静岡県浜松市浜北区平口
5042の1799
- 一、完了年月日 平成22年6月25日

(福) 小羊学園
理事長 稲松 義人



日産NV200 バネット7人乗り

利用者の送迎や受診・買い物等に利用させていただきます。ありがとうございました。

静岡県共同募金会 受配のご報告



■ 三方原スクエア児童部……………

- 助成物品 生活備品用倉庫 3棟
 - 助成額 760,000円
- 移転改築後、倉庫の数が少なく、衣類や遊具、備品等の収納が難しかったのですが、今回、助成を頂き、倉庫を整備できたことで、生活空間を有効に活用できるようになりました。



■ 支援センターわかぎ……………

- 助成物品 液晶TV 6台
ブルーレイレコーダー 5台
 - 助成額 1,077,000円
- 今回、液晶テレビ32型 4台、46型 2台、ブルーレイレコーダー 5台を配分して頂いたことで、大好きなスポーツや歌謡等の映像を大きな画面で見ることが出来るようになり、利用者の娯楽の時間の楽しみが広がりました。



多くの皆様のご支援をいただき、御礼申し上げます

小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

7月受付分	944,109円 (56件)
累計	1,968,012円 (139件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00800-8-107785
ゆうちょ銀行〇八九支店 当座預金 01017785
(これまでの「小羊学園を支える会」名義の口座もお使いいただけます。)ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

夏の全国高校野球大会が開幕を迎えた同日に、広島では原爆投下65周年の平和記念式典に駐日アメリカ大使が初めて公式に出席されたことが報道された。核廃絶を目指すオバマ政権への評価の一方、あるニュースのコメントーターが、原爆を投下した当事国の代表が参加したこと自体が、原爆という大きな惨劇が風化しつつあると話されていたことが、とても心に残る。65年が経過した今、多くの犠牲者と多くの悲しみがあったことを、戦争を知らない世代も知り、二度と同じ惨劇を繰り返さないよう、祈る気持ちでいっぱいである。

酷暑厳しい折です。みなさまどうぞお体ご自愛下さい。

(F)